弦楽六重奏 ピアノ五重奏 の調べに酔いしれて…!!

遠藤 吉比古の夕べ

◀コンサート当日のリハーサル風景
楽器を手にすると、表情も真剣に…。

▼コンサート会場は超満員！

『ふれあいコンサート、シュツットガルト・ゾリステン＆遠藤吉比古の夕べ』が先月4日、岩小体育館で行われました。当日は、村内外から約500人のクラシックファンが詰めかけ、ドヴォルザークの「ピアノ五重奏曲第二番、イ長調作品81」やブラームスの「弦楽六重奏曲第一番、変ロ長調作品18」などの調べに酔いしれていました。

ゾリステンの皆さん〝ダンケシェーン アウフビィーダゼーン〟

今回の「ふれあいコンサート」のもう一つの目玉は、ゾリステンのメンバーが一般の家庭にホームステイするというもの。今回、ホストファミリーとなった原の大岩稔さんからご寄稿をいただきましたので、紹介します。

「千羽鶴を折ろうよ」という子供たちの声で、わが家のホームステイの準備は始まりました。

コンサートが無事終わるようにと一週間。今まで感じたことのない緊張感が家族を包んだまま、日一日とその日が迫ってきます。日頃やらない所まで掃除をしてしまう母、何を食べてもらおうかあれこれメニューを考える妻、そして普段よりていねいに庭の手入れをする父。私はというと、少しだけ「ゆとり」があったのです。

というのも私自身、十年前当時の西ドイツでホームステイをし、ドイツの人々から心温まるもてなしを受けた経験があったからです。今回、ホストファミリーになろうと思ったのも、その時の恩返しをしようと思ったからです。

さて当日……。事前に写真を頂いていたせいもあってか、子供たちは何の違和感もなく、エンリケ・サンティアゴさんにまとわりついていきます。言葉の壁はあるけど、「あやとり」を教えて得意気な娘たちの笑顔。サンティアゴさんも、覚えようと一生懸命でした。

「来年も来ることになりそうです」とのサンティアゴさんの言葉、「今度はもっと英語を勉強して、話ができたらいいね」と娘たち。とても短い時間でしたが、私たち家族には有形無形の宝物がいくつもできました。

さわやかな春風のようなシックスストリングスを聞かせてくれたゾリステンの皆さん、遠藤吉比古さん、そして群響を呼ぶ会・公民館の皆さんに「ダンケシェーン！アウフビィーダゼーン……」

▶みんなで「あやとり」を…

▲コンサート当日、会場に詰めかけた500人の聴衆は、
時の経つのも忘れて名曲の演奏に酔いしれていました。

◀ゾリステンの皆さんに花束を贈呈！

前日、公民館講堂で行われた歓迎レセプションに、100人が集う！

公演に先立つ前日の三日、初めての試みとして行われたのが、この『歓迎レセプション』です。公民館講堂に集まった約百人のファンは、シュツットガルト・ゾリステンの皆さんを囲んで、楽しいひとときを過ごしました。

和納文化財保存会の皆さんが神楽舞を披露したり、全員で岩室甚句を踊ったりといった村民の熱烈な歓迎に、ゾリステンの皆さんは楽器を取り出し、予定になかった演奏をプレゼントしてくれました。

▲村民の熱烈な歓迎に、メンバーは楽器をとりだし、
予定になかった演奏をサービス！

▲レセプションで〝神楽舞〟を披露してくれた和納文化財保存会の皆さんと一緒に「ハイ・ポーズ！」

▲参加者全員で「岩室甚句」を…！